

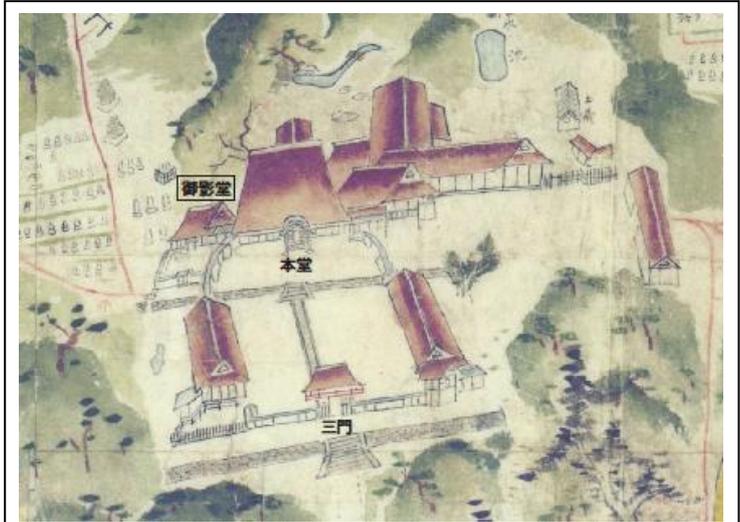
## 久留里の殿様の能仁寺参詣

飯能市立博物館 学芸職員 尾崎 泰弘

市内大字飯能に所在する武陽山能仁寺は、江戸時代、旗本であった中山照守家やその分家とともに、そこから出て大名になった上総国久留里藩黒田家の菩提寺となっています。黒田家の初代、直邦の墓は多峯主山の頂上近くにありますが、それ以後の藩主、妻や側室、幼くして亡くなった子どもなどの墓は能仁寺の境内(墓域)に現存しています。

管見の限りでは、黒田家の当主は享保 4 (1719)年春の初代直邦を初めとして、江戸時代を通じて 11 回能仁寺を参詣しており(下表)、2 歳で家督相続し 17 歳で病没した 5 代直温を除く 8 人の藩主は 1 度は必ず訪れています。中には 4 代直英や 6 代直方のように家督相続する前にお忍びでやってきた場合もあります(「御明細録」)。

残念ながらこれらすべてについて、受け入れる側の地元の史料が残っているわけではありませんが、真能寺村の名主を務めた双木家には、7 代直候と 9 代直和が参詣したときの記録が残っています。それらを見ると、藩主は参勤の途中や大坂加番の帰途に能仁寺に立ち寄っています。そして能仁寺に入ると、多峯主山にある藩祖黒田直邦の墓のほか、歴代の藩主(墓域の最上段)や、その妻、子どもたちの墓(墓地の西側に所在)、さらに御霊屋などを参拝しています。御霊屋は、一般的には祖先の菩提をとむらい、霊の依代として祖先の影像や位牌等を安置して拝するととされています。寛政 2 (1790)年 10 月に能仁寺が関三箇寺(曹洞宗において寺社奉行から出される命令を配下の寺院に触れる機関)に出した境内絵図には、本堂の向かって左(東)側に「御影堂」と記された建物(3 間半×4 間)があり、それが史料上「御霊屋」「能仁寺御霊屋」などと表記される御霊屋と考えられます。実際、能仁寺には、元文元(1736)年 10 月に能仁寺十



天保 13 年飯能村絵図に描かれた能仁寺の伽藍

五世廣亮によって建立された黒田直邦や、開基中山家勝の木像が現存しており、代々の位牌とともにこれらが御霊屋に安置されていたと考えられます。

飯能市指定文化財となっている天保 13(1842)年飯能村絵図に描かれた能仁寺の伽藍は、寛政 2 年 10 月のものと共通する点が多く、御霊屋は本堂左脇の建物と考えられます。

黒田家藩主の能仁寺(多峯主山)参詣一覧

参詣年月日	西暦	参詣者	文言	実際の参詣場所	出典
1 正徳2 . 6 .	1712	①直重	中山御廟	不明	御明細録
2 享保4 . 3 .	1719	①直重	中山御廟	不明	御明細録・双木家1163
3 寛保元 . 6 .	1741	②直純	中山御廟	不明	御明細録
4 明和7 . 9 . 3	1770	三五郎(のちの直英)	中山御廟	不明	御明細録
5 安永6 . 12 .	1777	③直亨	中山御廟	不明	御明細録
6 天明6 . 1 .	1786	④直英	能仁寺	不明	御明細録
7 寛政11 . 8 . 17	1799	直方・三十郎(直亨四男)	中山御廟	不明	御明細録
8 享和3 . 8 . 21	1803	⑥直方	御廟	不明	御明細録・双木家1558
9 文化12 . 8 . 17	1815	⑦直候		御霊屋・多峯主・殿様御廟	双木家681
10 天保12 . 8 .	1841	⑧直静	能仁寺参詣	不明	双木家No.
11 文久3 . 8 .	1863	⑨直和	多峯主山参詣	多峯主御廟所・能仁寺御霊屋	双木家No.1558

○付数字は藩主の代を示す。

### 【参考文献】

飯能市教育委員会『飯能の仏像Ⅱ』昭和 56(1981)年 3 月  
至文堂編『日本の美術 295 霊廟建築』平成 2(1990)年 12 月  
上総古文書の会『御明細録』平成 18(2006)年 8 月